



1年間が終わりました

今日で令和6年度の1年間が終わり、修了式がありました。「修了」の意味は、「この1年間で学校で学ばなければならない内容を全て学び終わった」ということです。みなさんはこの1年間で一人ひとりが大きく成長しました。でも、「学び」が終わったわけではありません。今年学んだことは、来年の学習につながっています。もっと言うと、みなさんが小学校を卒業して、中学校、高校、大学、そして社会に出るまで、そしてその後も、内容は変わりますが、一生「学び」はつづきます。

3月18日に卒業式が行われました。6年生43名は、一人ひとりが決意の言葉を発表して、どうどうと卒業しました。私は、卒業生に向けて「学ぶ」ということについてお話ししました。

「ゆうやけがうつくしい」という題がつけられた手紙があります。北代色(きただいいろ)さんという方が友だちに書いた手紙です。手紙には、『夕やけを見てもあまりうつくしいとはおもはなかったけれど、じをおぼえてほんとうにうつくしいと思うようになりました。』そして、『もっともっとべんきょうをしたいです。あと十年ながいきをしたいと思えます』という文があります。

私は、この文を読むたびに、「学ぶ」って生きる力をつけることなんだと思います。北代さんは、子どものころから働かないといけなかったので、学校に行けませんでした。そのため読み書きができなくて大変苦勞をされて生きてきました。ですが、60歳を過ぎたころから識字学級というところで読み書きの勉強を始めました。この手紙は、覚えた字で書いたものです。

北代さんは、「うつくしい」という言葉は知っていたと思いますが、「うつくしい」という文字を覚えて見た夕やけが、それまでとは違うものに見えたんでしょう。「学ぶ」ことで、世の中が違って見える、目の前が輝いて世界が広がっていく感じだと思います。もっともっとべんきょうしたいというのは、もっとよく生きたいという気持ちからでてきた言葉なのではないでしょうか。

みなさんも、今まで文字を覚えたり、知っていることがふえたり、できることがふえたりすることでどんどん自分の世界を広げてきました。これからも、そんなすばらしい「学び」をつづけていってほしいと思います。

保護者のみなさま

この1年間、本校の教育にご理解とご協力を賜り、ありがとうございました。子どもたちは、授業や行事にととも一生懸命に取り組み、一人ひとり成長しました。授業参観や運動会、舞台発表会などお子さまの姿をご覧になったり、ご家庭でお話をされたりすることで実感された方も多いのではないのでしょうか。子どもたちのこの1年間の頑張りを認めてあげてください。

改めまして、みなさまのご理解・ご協力に感謝し、今後も子どもたちの成長のために教職員一同、取り組みを進めてまいります。1年間、ありがとうございました。